

社会福祉法人翠燿会

平成 26 年度グリーンヒル事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
小規模多機能型居宅介護サテライト・グリーンヒル勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム
グリーンヒル八千代台南デイホーム

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人総務課

平成 27 年 5 月 25 日

社会福祉法人 翠燿会

【平成 26 年度 事業報告】

グリーンヒル八千代台 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

1. 目標稼働(平成 26 年度)の達成状況 (○数字は H26 事業計画の原文)

- ①稼働率(長期+短期):「月 38 名以上の稼働」「年間稼働率 98%目標」
⇒【達成】年間稼働率 98.5%。
- ②日常生活継続支援加算の算定継続(1日 23 単位)
⇒【達成】下記要件を算定根拠とし継続。
 - ・介護度 4・5 の割合・・・年平均 90.5% (平均介護度 4.4)
 - ・介護福祉士の資格取得者の保有割合
- ③療養食加算の算定(新規・継続;主治医との連携)(1日 23 単位)
⇒【達成】新規で 1 名追加
- ④認知症専門ケア加算Ⅱの算定継続(1日 4 単位)
⇒【達成】同加算Ⅰの要件を満たしたうえで、Ⅱの要件をクリア。
 - 同加算Ⅰ:認知症度Ⅲ以上割合・認知症介護実践リーダー研修修了者・
認知症ケアに関する会議等
 - 同加算Ⅱ:Ⅰの要件を満たし、更に認知症介護指導者研修修了者・
介護/看護ごとの研修計画の作成・実施
- ⑤経管栄養者数:上限 6 名(短期入所者は別)
⇒現在 4 名
- ⑥介護保険負担限度額認定者数:12 名
⇒【達成】年平均 9 名で推移(H27.3 月:2 段階(8 名)・3 段階(1 名))
- ⑦看取り介護(医療との連携)
⇒【達成】別添資料参照。同意書・プラン・経過記録・振り返りを実施。
- ⑧ケアプラン体制の強化・充実(アセスメント・カンファレンス・ケアプラン・モニタリング)
⇒【略達成】ブルーオーシャンシステムにより作業効率が向上
⇒【未到達】カンファレンス開催およびアセスメント・プラン勉強会

2. 今年度の実績

- ①千葉県ユニットリーダー研修実地研修施設として認可
 - ・ユニットケア(自分たちのケア)の振り返りの機会となった。
- ②記録管理システムの導入と運用(ブルーオーシャンシステム)
 - ・職種間共通の記録として一元化ができた。会議や家族説明資料としても活用。
- ③生活向上委員会の立ち上げ
 - ・多職種・専門職との連携および情報共有につながった。
- ④看取りケア反照的習熟プログラムの導入

- ⇒東京都健康長寿医療センター 島田 千穂博士（保健学）との協働
- ・「看取り介護後の振り返り」と「次の看取り介護の課題解決」の場として機能。
- ※千葉県高齢者福祉施設協会 平成 25 年度 介護職・看護職研修会にて、
- 「グリーンヒル八千代台における看取り介護の視点」として発表
- ⑤通所型介護予防事業（二次予防；総合プログラム）の実施
- ・介護予防の啓蒙と専門職の活躍の場として機能。
- ⑥介護職員研修（基礎力養成・実力向上）・スキルアップ研修の実施

3. 次年度の課題

以下 3 点に課題(取り組み不十分)が残ったため、目標として掲げ、改善に取り組みたい。

- ①その人らしさの介護（私たちの介護）に専門性とプライドを持つことができる。
 - ・ユニットケアや認知症ケアなどの知識を深める。
 - ・医療や栄養、機能訓練などの知識を、専門職との協働でケアに反映することができる。

※接遇力の向上。ホスピタリティーケアの導入。
- ②ケアの根拠を理解しチームで共有することができる。
 - ・アセスメント・ケアプラン・24 時間シート・各種記録などを多職種で活用し、ケアの根拠を説明することができる。
- ③その人らしさの介護（私たちの介護）を振り返ることができる。
 - ・「その人の目標に対する評価」と「法人理念・事業計画・各ユニットケア理念」の両輪により、評価と振り返りを行することができる。

4. 平成 26 年度の特養・短期の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
月末利用登録者	28	27	28	28	29	26	25	26	29	26	27	27	27
入所延日数	843	858	859	882	897	819	795	773	876	845	730	838	835
入院延日数	14	33	32	16	3	30	32	45	106	111	66	35	44
利用実日数	829	825	827	866	894	789	763	728	784	734	665	803	792
1日平均利用者数	27.6	26.6	27.6	27.9	28.8	26.3	24.6	24.3	25.3	23.7	23.8	25.9	26.0
平均介護度	4.2	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4
(介護度4・5割合)70%	88.7%	88.4%	85.1%	89.4%	85.3%	89.0%	92.2%	92.2%	91.5%	92.0%	92.3%	100.0%	90.5%
新規入所者数	0	1	2	0	1	1	1	2	4	0	1	2	1
内介護度4・5以上											1	2	
内認知度Ⅲ以上											1	2	
退所者数	1	2	0	1	0	3	2	1	0	3	0	2	1
負担限度額認定者	10	10	9	9	10	10	9	9	10	9	9	10	10
短期請求件数	26	29	24	24	23	25	35	29	26	28	26	24	53
短期入所延日数	340	383	302	343	316	356	424	413	394	449	425	408	379
特養・短期合計延日数	1,169	1,208	1,129	1,209	1,210	1,145	1,187	1,141	1,178	1,183	1,090	1,211	1,172
特・短1日平均数(予算38人)	39.0	39.0	37.6	39.0	39.0	38.2	38.3	38.0	38.0	38.2	38.9	39.1	38.5
稼働率/39	99.9%	99.9%	96.4%	100.0%	100.0%	97.9%	98.2%	97.5%	97.4%	97.8%	96.4%	100.2%	98.5%
前年度稼働率	97.7%	97.8%	99.8%	99.8%	99.9%	99.8%	99.2%	99.8%	99.9%	99.8%	100.0%	99.9%	98.9%
前年度との比較	2.2%	2.1%	-3.4%	0.2%	0.1%	-1.9%	-1.0%	-2.3%	-2.5%	-2.0%	-3.6%	0.3%	-0.4%
介護福祉士取得者	20/5	20/5	20/5	20/5	20/5	20/5	20/5	20/5	21/5	21/5	21/5	21/5	

資料

第1表 稼働率など（前年度比）

	LS	LS+SS	新LS	LS退	介護度(4・5割合)	限度認定	稼働率
平成25年度	27.8	38.8	10	9	4.4(84.6%)	12/29名	98.90%
平成26年度	26.0	38.5	14	13	4.4(90.5%)	9/27名	98.70%

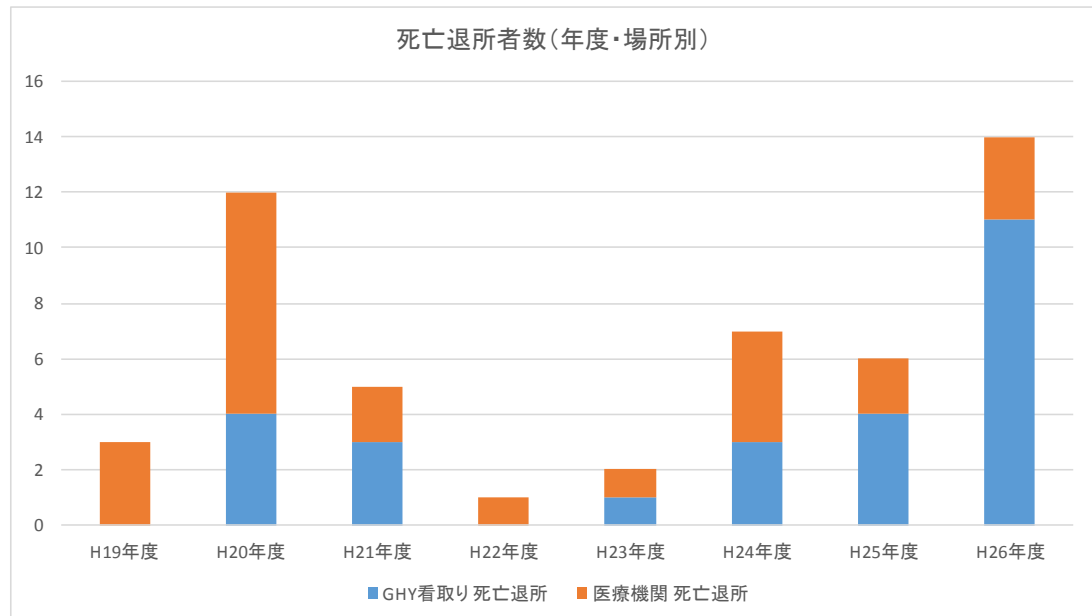
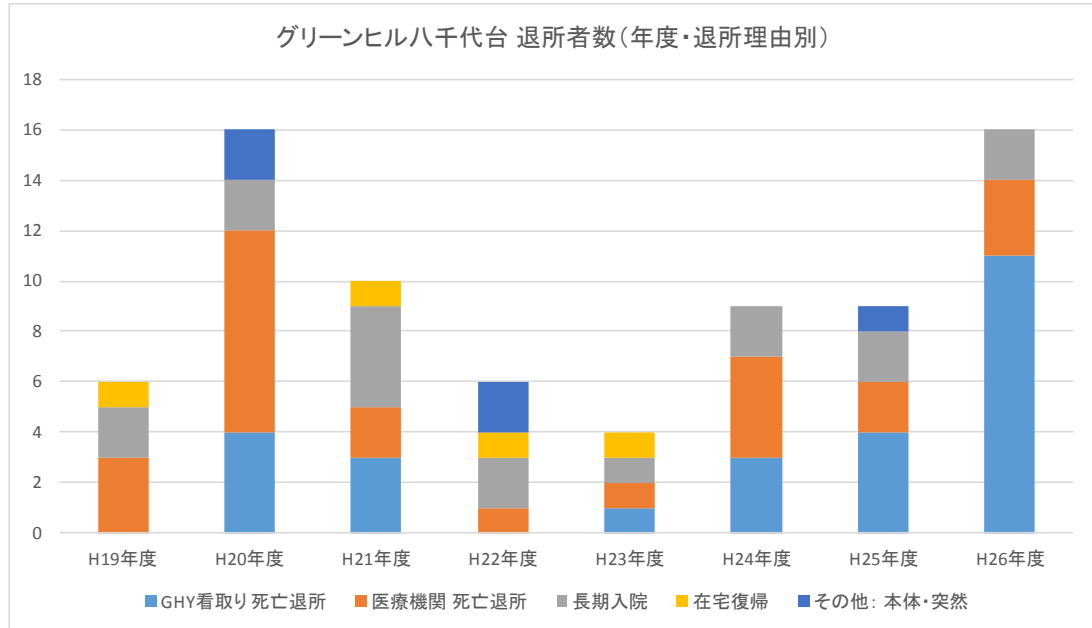
第2表 入院者数の推移（前年度比）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院1ヶ月越
H25年度					2			2		1		1	6	134	2	3
H26年度	入院	1				3		1	2	2			9	237	2	
	長期入院						1		1	1			3			3

第6表 看取り介護等の履歴（開設当初より）

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他: 本体・突然	合計
H19年度	0	3	2	1	0	6
H20年度	4	8	2	0	2	16
H21年度	3	2	4	1	0	10
H22年度	0	1	2	1	2	6
H23年度	1	1	1	1	0	4
H24年度	3	4	2	0	0	9
H25年度	4	2	2	0	1	9
H26年度	11	3	2	0	0	16

H19.10.1	～	H20.3.31
H20.4.1	～	H21.3.31
H21.4.1	～	H22.3.31
H22.4.1	～	H23.3.31
H23.4.1	～	H24.3.31
H24.4.1	～	H25.3.31
H25.4.1	～	H26.3.31
H26.4.1	～	H27.3.31



【26年度の振り返り】

(グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業所事業報告)

・受診時にご家族が仕事で対応できないケース等が目立ってきた。介護者が受診付き添いすること自体に消極的なケースもあり、付き添い支援が以前より増えた部分もある。

受診に限らず、ご家族等インフォーマルサービスの力をいかに引き出すかが課題にもなっている。

・ご利用者やご家族がひと昔と違い、価値観や介護保険に求める部分が変わってきてるのを感じる。ケアマネージャーとして対応する範疇はきっちりした線引きがないところもあるので、ご利用者やご家族が介護保険制度やケアマネージャーに求めるものとの間に乖離がありその溝を埋めることに苦労することも多い。

また、ご家族も多様化しており、ご家族自身に生活上また、精神上的の疾患等を抱えていると問題が複合的になりやすい。関係機関と連携していく必要性が求められている。

・施設内でも居宅介護支援事業所での対応のみならず、事務所全体に電話対応での注意点や お願い事を発信し協力してもらっている。

平成26年度 グリーンヒル八千代台 居宅介護サービス計画 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
目標件数(予算)	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95.0
請求件数	97	98	99	98	98	100	99	97	91	90	91	89	95.6
前年件数	85	87	87	89	84	91	93	99	98	98	92	93	91.3
新規利用者	7	7	4	4	4	5	3	4	1	4	2	1	3.8
休止・中止利用者数	2	6	3	5	4	1	2	6	8	5	4	3	4.1
要介護 1	32	34	34	37	36	35	32	34	32	34	37	35	34.3
要介護 2	21	19	20	21	22	25	23	22	23	20	18	20	21.2
要介護 3	23	24	24	21	19	17	18	16	14	15	16	16	18.6
要介護 4	12	11	11	10	12	14	15	15	14	14	14	12	12.8
要介護 5	9	10	10	9	9	9	11	10	8	7	6	6	104.0
合計	97	98	99	98	98	100	99	97	91	90	91	89	95.6
稼働率	102.1%	103.2%	104.2%	103.2%	103.2%	105.3%	104.2%	102.1%	95.8%	94.7%	95.8%	93.7%	100.6%
予防介護支援件数	15	14	14	12	11	11	11	10	10	7	7	7	11

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台 【平成 26 年度 事業報告】

1. 目標

平成 26 年度のサテライトについては、26 年度平均介護度 1.1 であった。目標値である年間平均 11 名登録<目標稼働率 97%>については年間平均(稼働率 97.3%)という結果となり安定的に稼働が継続していくことができた。また、当初から予定していたサテライト事業として本体へのケース移行など安定して行なう役目を果たすことができ、本体(八千代台)が稼働率 95.5%となり昨年度と引き続き本体事業の安定化に寄与する役割が果たせていると考えている。福祉サービスにおいて事業所が提供するものはより複雑になり、利用者及び家族等との接点も増え、その重要性も高まっている。このような状況の中、利用者への関心が薄れがちな階層的な分割型組織では対応しきれず、フラットでマルチな利用者接点を持ちうるコネクト型組織が必要になっている。サービスの複雑化の中、利用者及び家族等に受け入れられない事業所の淘汰が進む段階において、より柔軟に状況に対応できる組織づくりが早急に必要となっている。しかしながら、人材において安定的配置が行われない現状や職員要件化がおこなわれていないことにより組織体として弱体化を迎えている。

2. 内容

① 小規模多機能稼働率向上の取り組み

・介護業務の統合、サテライト事業との協働体制の強化、基本帳票の基準化等をおこない「八千代台」「勝田台」の業務遂行が同じ手順でおこなわれるようにすることにより連携をとりやすくするようになってきている。今後も通い・泊まり・訪問等、利用者の在宅生活を包括的に支える体制を構築すべき、配食・地域コミュニティ(プログラムの一部開放・地域主体型サークルへの協力等)との協力関係などが出来るようになっていくことが稼働率の維持・向上に繋がっていくものであると確信している。(社会参加・柔軟なサービス対応)

・サンコーポ自治会における「餅つき大会」「炊き出し訓練」「勝田台地区合同消防訓練の参加」「AEDを使用した心肺蘇生法訓練の実施」等を勝田台住民の方々と一緒に活動をおこなったことにより事業所を知っていただき地域活動にも参加することができた。今後も地域自治会と協力関係を築きながら、地域包括支援センターを始めとする各居宅介護支援事業所、地域住民等に活動内容を知っていただくことが利用者紹介率を増加する鍵だと考えている。今後の地域拠点として地域包括支援センターとの連携を推進し、協働体制を取り地域に貢献したいと考える。

② 人員配置とサービスの質

・サテライトにおいては現行の人員配置を維持しながら、訪問を中心とした通い、泊ま

り等のサービス展開がなされていくことが課題であり稼働率の向上へのカギとなると考察している。

- ・日々変化のある状態・状況の中で、徹底していく難しさはあるが、26年度後半から情報共有の方法を見直し、引き続き情報の「発信」・「受け取り」については全体で意識を高めていけるよう努力していくことが重要であると考えている。

- ・訪問強化加算・総合マネジメント加算創設に伴い、新たに多職種連携会議を創設し情報共有及びサービスへの実行への正確性と迅速性を高めていくことが必要と考えられる。

③ サービス提供について

- ・サービス多様化が進むに従って、事業所が利用者に提供する価値は、モノのように企業から一方的に提供されるものではなく、利用者との関係性の中で常に発生するものであり、サービスの価値は利用者がどう感じるかによって決定される。

- ・事業として利用者とは相談しながら季節にあわせた壁面や工作・リハビリ体操・おやつ作り・外出等各種行事や地域行事(元気クラブ)等の参加など少人数ならではのプログラムの実施や小規模ならではのゴミだし、安否確認、緊急時の訪問業務を展開し在宅生活を支える支援を実施しているがマンネリ化していることも多く今後サービスの質が向上するためには、更なるプログラムの充実、職員のスキルアップ研修・接遇マナー等を積極的に参加機会の確保をしていくと共に、職員一人一人が習得した知識や技能を活かせるようにリーダー及びサブリーダーが中心となりサテライトの利点である少人数制を生かしての個別対応が大切になると考えている。

3. 平成26年度の稼働表

平成26年度のグリーンヒル勝田台の小規模多機能居宅介護の報告													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
月末登録利用者数	12	12	11	12	12	12	11	11	11	12	12	12	11.67
訪問平均回数/週	3.55	2.84	2.34	3.47	3.81	3.69	3.46	3.62	3.21	3.37	3.95	4.63	3.495
通い平均回数/週	2.02	2.04	1.54	1.63	1.82	1.92	1.84	1.93	2.14	1.82	1.95	1.88	1.8775
泊まり平均回数/週	0.44	0.41	0.34	0.03	0.05	0.03	0.07	0	0.23	0	0.06	0	0.13833
利用回数計	310	282	211	267	303	291	271	262	287	268	287	347	282.167
当該月日数計	360	372	349	363	372	360	352	330	359	361	336	372	357.167
利用者一人当たり平均回数/週	6.02	5.3	4.23	5.14	5.7	5.65	5.38	5.55	5.59	5.19	5.97	6.52	5.52
平均介護度	1.3	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.20	1.1	1.1	1.2	1.1
新規利用者数	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0.41667
登録中止利用者数	0	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0.41667
稼働率	100.0%	100.0%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	91.7%	91.7%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	97.3%
前年度稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	91.7%	100.0%	91.7%	91.7%	100.0%	100.0%	98.0%
前年度との比較	0.0%	0.0%	-8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	-0.7%

以上

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【平成 26 年度 事業報告】

1. 目標

平成 26 年度の小規模多機能については、目標値である 23 名登録以上については、**年間平均 24 名(稼働率 95.5%)**と、昨年度同様の数値をだすことができました。常に**利用者数の一定化**を意識し、地域住民に密着した生活の支援を行なってきた結果だと考えている。

しかし、ここ 6 年間、**適性人材の補充がなされない部分等**が多くあり事業的に艱難辛苦の局面を向かえ**組織の弱体化**していることは否めない事実である。マンパワーに依存した業務推進には限界があり、何を目的とした組織なのか、戦略 (Strategy)、組織構造 (Structure)、組織運営 (Systems)「ハード S」、その目的に見合ったソフト面、人材 (Staff)、組織風土 (Style)、スキル (Skills)、職員の価値観 (Shared Value)「ソフト S」のベクトルがバラバラとなっている状況であり、サービスの複雑化の中、利用者及び家族等に受け入れられない事業所の淘汰が進む段階においてより**柔軟に状況に対応できる組織づくり**が早急に必要となつていと考察する。次年度においては、登録の拡大もあり、正職の比率を増やし人材育成を再構築したいと考えている。

2. 内容

①小規模多機能稼働率向上の取り組み

・**部署間(特養・SS)の接点業務と介護業務の統合、サテライト事業との協働体制**、本帳票の基準化等をおこない「八千代台小規模」「勝田台小規模」の業務遂行が同じ手順でおこなわれるようにすることにより連携をとりやすくことが不可欠である。今後も通い・泊まり・訪問等、利用者の在宅生活を包括的に支える体制を構築すべき、配食・地域コミュニティ(プログラムの一部開放・地域主体型サークルへの協力等)との協力関係などが出来るようになっていくことが稼働率の維持・向上に繋がっていくものであると確信している。(社会参加・柔軟なサービス対応)

②人員配置とサービスの質

・職員の人員配置上は問題ないが人材資源不足により、サービスの質を維持していくことに苦慮しているが、27年度より「看護職員配置加算」「訪問強化加算」等の算定施設になることにより人員基準を下回ることがないように適正配置される必要がある。

・業務をシンプルにし、ルーチンワーク化することで組織を収益に直結した業務に集中させることを目的する必要がある。組織における役割分担「人に仕事を付ける」から『仕事に人を付ける』ことで、業務の標準化を可能にしていくことがサービスの質を保つことができる方法であると考えている。

③サービス提供について

・サービス多様化が進むに従って、事業所が利用者に提供する価値は、モノのように企業から一方的に提供されるものではなく、利用者との関係性の中で常に発生するものであり、サービスの価値は利用者がどう感じるかによって決定される。

・壁面工作など季節ごとに進められてはいたが、各テーブルに職員がつけないことや準備不足で慌ただしい環境になってしまったことがあった。また、午前中の時間の流れにマンネリがあり、体操もしっかりしたものが出来ていなかったため、下半期より個々のリハビリ・ストレッチを合同で行うことも目的にして、地域交流室の空いている日は移動し11時から30分ほどを体操の時間として実施した。

・ケアの徹底という点に関しては、日々変化のある状態・状況の中で、徹底していく難しさはあるが、26年度後半から情報共有の方法を見直し始めたところであり、引き続き情報の「発信」・「受け取り」については全体で意識を高めていけるよう努力していきます。

・今後の小規模多機能のあり方の一部ではないかと考えられる一事例がある。それは、**介護度の軽減化される利用者に対して、地域拠点としての支援のあり方**の方法を「利用者からボランティアへ」移行していける事業所として自立支援に取り組む事ができた。今後も引き続き取り組んでいきたい。

3. 平成26年度の稼働表

平成26年度のグリーンヒル八千代台の小規模多機能居宅介護の報告													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
月末登録利用者数	24	25	23	24	24	25	24	24	24	24	23	24	24.00
訪問平均回数/週	1.69	1.86	1.95	2.04	1.79	1.88	1.92	1.75	1.95	1.89	2.29	2.06	1.9225
通い平均回数/週	2.67	2.97	2.8	2.91	2.67	2.96	2.99	2.86	3.1	2.95	3.26	3.19	2.94417
泊まり平均回数/週	1.36	1.12	1.09	0.99	0.96	1.11	0.94	0.93	0.98	0.93	0.95	1.31	1.05583
利用回数計	579	660	590	611	578	639	609	571	636	611	614	687	615.417
当該月日数計	707	775	706	719	744	750	726	720	736	740	660	731	726.167
利用者一人当たり平均回数/週	5.73	5.96	5.84	5.94	5.43	5.96	5.87	5.55	6.04	5.77	6.51	6.57	5.93083
平均介護度	2.8	2.9	2.9	3.0	3.1	3.0	2.9	3.0	3.0	2.9	2.9	3.0	2.9
新規利用者数	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0.83333
登録中止利用者数	1	0	3	0	0	0	2	1	1	1	1	0	0.83333
稼働率	94.3%	100.0%	94.1%	92.8%	96.0%	100.0%	93.7%	96.0%	95.0%	95.5%	94.3%	94.3%	95.5%
前年度稼働率	94.8%	96.0%	97.5%	96.8%	100.0%	96.0%	91.5%	98.7%	97.8%	92.0%	93.0%	98.1%	96.0%
前年度との比較	-0.5%	4.0%	-3.3%	-4.0%	-4.0%	4.0%	2.2%	-2.7%	-2.8%	3.5%	1.3%	-3.7%	-0.5%

以上

グリーンヒル八千代台 訪問介護 【平成 26年度 事業報告】

1. 運営状況

平成 26 年度は、目標の実績に到達できませんでした。その要因には、上半期において、常勤ヘルパーの本体移動後のサービス提供者の 1 名の体調不良による退職、その後、サービス提供者は常勤 1 名・非常勤 1 名となり、人材不足となり、その後も人材確保が出来ないままに、経過したことが影響しています。

但し、少数の体制であっても、ご利用者の状況・ケアマネージャーの判断により、時には営業日外の時間・曜日にも柔軟に対応し、ご利用者、ご家族、ヘルパー同士、またケアマネージャーとのコミュニケーションを重視し、サービス内容についての確認などを頻繁に行った結果、大きなトラブルもなく、ご利用者の方々にも満足いただけているものと考えています。

特に誕生日の日のささやかなプレゼントは、利用者及び家族にも、好評です。次年度も継続したいと思っています。

2. 職員体制・研修について

- ・ サービス提供責任者常勤者 1 名・非常勤 1 名（介護福祉士有資格者）

非常勤ヘルパー 2 名・登録ヘルパー 9 名

⇒現在の資格取得状況：介護福祉士 4 名、ヘルパー 2 級 7 名

- ・ 全体定例研修は、年間研修計画どおり、月 1 回実施しました。その他、外部の研修に参加、個別での介護技術の指導・同行訪問を実施しました。

3. 課題と今後の方針

- ・ 今後の訪問介護の事業所としては、常勤職員の人材確保が難しい状況で、**登録ヘルパーに重点を置き**運営していく方向です。また、個々のヘルパーのより一層の意識・技術向上を図り、ご利用者の更なる満足を目指します。また、それにより登録ヘルパー増員時の同行研修等の質を向上させ、今後の利用依頼に即応できるようにしていきます。
- ・ **安定した人材確保が年間出来るかが、大きな課題**となると思います。

以 上

グリーンヒル八千代台 保育室 【平成 26 年度 活動報告】

1. 運営状況

平成 26 年度の幼児の利用状況は、下記のとおりです（入園時年齢にて表記）。

- 0 歳児……2 名（今年度も利用中）
- 1 歳児……2 名（今年度も利用中）
3 名（途中にて利用なし）
- 2 歳児……2 名（平成 27 年は幼稚園）

上記の幼児が通年利用し、結果「登録 8 名」を越えることなく、運営をすることができました。

ただし、【表 1】が示すように、春休み・夏休み・冬休みの各期において、急激に児童（当保育室卒園児童など）が増えます。また、土曜日・祝日の受け入れが可能なこともあり、フルパートの就労確保に大きく寄与している面があります。

グリーンヒル八千代台では、子供が預けられるという点が就労者の確保につながり、とりわけ短時間パートについては（入浴パート等）、口利きによる職員紹介で人材確保につながりました

2. 活動状況

グリーンヒル八千代台保育室の目的である、『高齢者との触れ合い』等についても、下記のとおり計画的に行うことができました。

平成 26 年

- 4 月 3 日……お花見（小規模多機能の利用者と共に）
- 7 月 29 日……スイカ割り（特養の利用者と共に）
- 8 月 5 日……グリーンヒル八千代台夏祭りに参加（地域住民の参加）
⇒子供みこしのお披露目・ゲーム（屋台）に参加
- 9 月 1 日……施設全体防災訓練（避難誘導訓練）に参加
15 日……敬老会に参加（利用者へ手作りプレゼントやお遊戯の披露）
- 10 月 25 日……お芋堀り（小規模多機能の利用者と共に）
29 日……ハロウィン（施設全体にて）
- 12 月 24 日……クリスマス会（小規模多機能の利用者と共に・アトラクション参加）
27 日……餅つき大会に参加（地域住民の方々も参加）

平成 27 年

- 2 月 3 日……節分の豆まきに参加
 - 3 月 13 日……日帰りバスハイク（卒園旅行；小規模多機能の利用者と共に）
- 上記以外にも、手作りピザや手打ち蕎麦、バーベキューなどを「高齢者との触れ合

い」をテーマに、日々の生活を送れるようにしている。

高齢者がくもん学習療法の帰りに、何気なく子供達に声を掛ける姿、日常の生活に子供達の声が聞こえることなど、何気ないこと（日常の風景）であるが、高齢者も職員も癒されること大である。

3. 課題

この利点をどこまで活かしきれるかが課題と言える。

5月から育児休暇を終え、復帰した職員がいる。8月には、パート職員が6ヶ月から預かって頂けるなら、復帰する予定でもある。ただし、保育士の勤務時間等の制約により縛りがあるのも事実である。

今後はこの部分をどう活かしていくかが、人材不足（人材確保）のなか、鍵だと思います。

表1 平成26年度グリーンヒル八千代台保育室の利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
幼児	125	113	96	94	79	101	126	94	84	61	55	82	1110
学童	67	36	27	93	175	40	25	46	102	43	33	70	757
合計	192	149	123	187	254	141	151	140	186	104	88	152	1867

	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土											
4月 幼児		3	6	7	5	3	6	4	6	5	5	2	3	4	7	5	5	3	6	5	6	5	5	3	4	5	7							125	
学童		6	12	7	7	3	6	5	2	1		8		1				2						2			5								67
5月 幼児				5	5	3	3	3	7	6	6	3	5	4	5	4	5	2	4	4	2	6	6	3	3	4	5	4	4	2					113
学童					8	4	5					1	1						1	3					5			2	1		5			36	
6月 幼児	4	5	6	4	4	3	4	4	4	3	5	2	3	4	5	2	5	2	4	4	3	4	4	3	5										96
学童					8							3	3					8	3					2											27
7月 幼児		3	4	4	4	2	5	1	4	3	2	2	5	3	4	4	5	2	2	4	5	3	4	2	6	3	4	4							94
学童					6							2					2	2	3	10	9	5	11	12	2	11	5	8	5						93
8月 幼児					3	3	3	4	2	3	4	3	5	3	3	2	4	2	3	1	4	3	4	3	2	2	4	5	3	1					79
学童					7	6	5	15	11	4	6	7	7	5	8	9	6	3	7	5	5	6	5	9	8	9	3	8	8	3					175
9月 幼児	3	4	7	5	4	2	5	5	3	2	5	2	5	4	2	4	3	2	5	3	5	4	5	3	5	4									101
学童					7							8	12						5	1	4				1	2									40
10月 幼児			5	6	5	4	3	4	6	5	5	3	2	2	4	4	6	1	7	5	6	5	3	8	6	7	5	5	4						126
学童					7	4					5		2			6														1					25
11月 幼児					3	4	4	6	3	6	3	6	5	2	4	5	2	4	4	4	3	3	2	3	3	4	5	4	2						94
学童					3	9	1				6					6								2	10	1					8				46
12月 幼児	4	4	4	3	2	2	4	4	4	4	3	2	3	4	4	2	3	2	4	2	5	3	2	3	4	3									84
学童					2						3	1				8		10	11	11	12	15	14	9	6										102
1月 幼児						3	2	3	4	3	1	4	3	3	2	4	1	4	3	3	2	2	1	2	2	2	2	2	2						61
学童					6	10	1				2	8			1	6										3								6	43
2月 幼児	4	4	5	2	1	2	3	1	2	2	1	2	2	1	1	2	2	3	4	3	2	2	2	2	2										55
学童					2		6	1	1	5						11								1	6										33
3月 幼児	4	3	3	3	3	2	5	3	5	3	4	1	4	3	3	4	2	3	4	4	3	3	2	2	2	4									82
学童					1						4		4	1	3	2	2	9	3	5		11	7	8	8	6									70

*学童表示については、兄弟・姉妹の預かりを表記した名称です。

以上

平成26年度 グリーンヒル八千代台南デイホーム 事業報告

1. 運営状況

- 利用者の登録人数 20 名（3月現在）、一日の平均利用者は 8.4 名で目標の 8 名を上回ることができた。1 年を通し、定員 9 名の満員状況である。
- 登録者の要介護度は、要介護 3 が 2 名、要介護 2 が 8 名、要介護 1 が 6 名、要支援 2 が 3 名、要支援 1 が 1 名で平均介護度は 1・6 だった。
- 経営状況は、収入総額 19,743 千円、支出総額 14,851 千円、当期資金収支差額 4,892 千円で順調な状況であった。

2. サービスの目標達成状況

- ご利用者に気兼ねなく自由に過ごしていただくために、声掛けや座席の配慮を日々行った。
- ご利用者の声を聞き取り、おやつ作り・手芸やクラフト・季節ごとの壁面飾りを行い、楽しんでいただけた。
- 年間を通し、季節を感じられる外出、PT の指導に基づく体操、ゲーム・歌等で日常生活動作の向上に努めた。
- ご利用者個々の通所介護計画を定例会議で見直し、計画に沿ったサービスを提供できるようにした。
- ご家族、関係者と連絡・報告を密に行い、連携を図ることができた。

3. 企画行事報告及び会議の実施状況

- 誕生会 21 名実施。
- 外出・行事
 - ・ 4 月：お花見
 - ・ 7 月：「星乃珈琲でティータイム」
 - ・ 9 月：敬老会、花の美術館外出
 - ・ 10 月：印西コスモスの丘外出
 - ・ 11 月：谷津バラ園外出、「新そばの会」
 - ・ 12 月：クリスマス会、もちつきに参加、「サイゼリアでランチ」
 - ・ 1 月：成田山初詣外出
 - ・ その他近隣の公園等に外出
- 料理作り・おやつ作り企画：「餃子作り」「ピザ」「たこ焼き」他
- 南元気クラブ 毎週水曜日、年間 47 回、延 248 人参加。
- 南デイ会議（毎月 1 回）実施、グ八千代台事業所会議（毎月 2 回）に参加。

4. 課題と今後の方針

- 利用者 1 日 9 名稼働を維持する。
- 引き続き「チームケア」を実施していく。
- 介護報酬改定で単価が減少したので、今後の経営状況をみて対応策を考えていきたい。

以上

平成26年度 グリーンヒル八千代台南デイホーム 実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
登録人数	19	22	22	22	22	22	22	23	22	21	21	20	21.5
利用者数	19	22	22	22	21	22	22	23	22	21	21	20	21.4
新規利用者	0	4	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0.6
登録中止利用者数	0	1	0	1	保留 1	0	0	1	1	1	0	1	0.5
運営日	22	22	21	23	21	22	22	20	21	20	20	22	21.3
延べ人数	163	175	170	189	174	193	192	175	184	173	172	192	179.3
予防実人数	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.8
要介護実人数	16	19	19	18	18	18	18	19	18	17	17	16	17.8
合計	19	22	22	22	22	22	22	23	22	21	21	20	21.5
平均介護度(要介護者)	1.6	1.6	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
1日平均利用者数(予算8人)	7.4	8.0	8.1	8.2	8.3	8.8	8.7	8.8	8.8	8.7	8.6	8.7	8.4
前年平均利用者数	5.9	5.8	6.2	6.2	5.6	6.0	5.8	6.1	7.0	6.3	5.9	7.4	6.2